反貧困全国集会2014

生きぬくためにつながろう！

報 告 集

反-貧困
ANTI-POVERTY CAMPAIGN

貧困とはつながりを簡単に断ち切る。

人と人を孤立させる。
ほんとうは憎みあわなくていいはずの人たちを憎みあわせる。
生きることが苦痛になる大切なものを失わせる。
だからもう一度わたしたちは呼びかける。
貧困問題は解決していない。
生きぬくために…つながろう！

2014年12月1日発行
「反貧困全国集会2014」実行委員会

もくじ

◆映画上映『続・メトロレディーブルース』(40 分)
『ウォール街占拠 2011』(14 分) 青野 恵美子…2
◆全国反貧困ネットワーク活動交流会
猪股 正(弁護士)/下郷 さき(反貧困ネットワーク北海道)…2
◆シンポジウム
雨宮 処凛(作家・反貧困ネットワーク世話人)…3
◆ワールドカフェ
吉村 一正(さんきゅうハウス)/橋本 真希子(反貧困ネットワーク埼玉)/関口 多恵子(反貧困ネットワーク埼玉)…4
◆STAND UP アクション
諸 英樹(動く→動かす)/尾上 裕亮(障害者の生活保障を要求する連絡会議)…4
◆集会全体の感想
広瀬 隆(反貧困ネットワーク埼玉)/水谷 英二(反貧困ネットワークあいち)/小林 哲彦(反貧困ネットワーク埼玉)…5
◆キッズコーナー 栗林 知絵子…6
◆こもれびコーヒー 小林 美穂子…7
◆風のすみか…7
◆集会宣言…8

◆プログラム◆

午前の部（２部構成）

○11:00～12:30

① 全国反貧困ネットワーク活動交流会

反貧困をテーマに全国で活動している方々から報告をいただき交流しました。

② 映画上映 『続・メトロレディーブルース』(40 分)、『ウォール街占拠 2011』(14 分)

午後の部

○13:00～15:00 シンポジウム

ブラックアルバイト、非正規雇用、ＪＫ産業や子どもの貧困、生活保護、住宅問題に取り組む方々からのメッセージと課題の共有化を行いました。

●司会：雨宮 処凛（作家・活動家）

●パネラー：岩井 佑樹（首都圏青年ユニオン）、後呂 良子（東京東部労組メトロコマース支部）、仁藤 夢乃（女子高生サポートセンターColabo）、稲葉 剛（自立生活サポートセンター・もやい）

○15:00～17:00 ワールド・カフェ

『生きぬくためにつながろう！』をテーマに、これからの運動の目標や方法論を参加者全員で考えました。

○17:30 STAND UP アクション

○18:00～19:30 懇親交流会

反貧困全国集会 2014 は、全国の反貧困運動がつながることを目的のひとつに掲げた。そこで、午前中 11 時からは、全国反貧困ネットワークの団体に呼びかけて活動交流会を持った。同時並行で、一般の参加者向けに２本の映画上映も行った。

■映画上映『続・メトロレディーブルース』『ウォール街占拠２０１１』

２本の映画の撮影場所は、東京とニューヨークのウォール街。一見すると遠くかけ離れた場所での出来事と思えるが、2 本の映画に登場する人たちが表現しているのは、「怒り」である。

東京メトロの売店ではたらく後呂さんたちは、何年働いても時給は上がらない、同じ仕事をしている正社員との格差は広がるばかり、という差別に怒りを爆発させる。映画の冒頭、後呂さんが地面を足で蹴りながら発言するシーンは印象的だ。言葉だけでなく、全身で表現することができるのだ、ということを思い出した。

一方、ニューヨークの人たちは、ウォール街にある小さな公園にテントを張って占拠した。集まった人たちが何に怒っているのかは、さまざまだが、共通しているのは貧富の格差だという。「占拠」は、それへの怒りの表現のひとつだ。

私たちの「怒り」の表現方法は、尽きることはない。　（青野　恵美子）

■全国反貧困ネットワーク活動交流会

北海道、宮城、栃木、群馬、東京、神奈川、愛知、広島、熊本など各地からの報告があり、討論が行われた。各地からの反貧困ネットワークの活動が具体的にわかり、顔が見える関係がつくられた。

埼玉の反貧困ネットワークは元気にやっています。ただ、この2年ほど事務局長の産休などもあり、やや活動が停滞気味でした。もしかしたら他の地域も元気を失っているのではないかとも思っていましたが、反貧困ネットワークの全国交流集会に参加して、実はそうではないということがよくわかりました。みなしぶとく、粘り強く頑張っています。例えば、広島の毎年の大相談会、シェルター運営。富山では、比較的最近立ち上がった反貧困ネットワークが主体となり、自治体に働きかけて、就学援助基準引き下げを撤回させた等々。各地の報告にふれ、よしやろう！という力をもらいました。

今後、全国の横の連携を深め、例えば、就学援助基準引き下げ反対の全国一斉行動など、元気の出る運動を進めていけるといいと思います。

（猪股　正　弁護士）

他に行ける人がいないということで、今回私にお鉢が回ってきました。当日は、持ち時間が 3 分しかなかったことに加え、そもそも北海道のネットワークの事情をよく知らなかったため、とっても内容の薄い報告になってしまいました。

でもなんだか申し訳なく思いつつも、報告の後

はけっこう楽しみました。シンポジウムを始め、ワールドカフェ、交流会、打ち上げ、二次会、三次会…。いろんな人やいろんな運動に出会えました。私は札幌で市民運動なるものに携わるようになって、まだたったの2年ですが、それでも最近では、興味のあるイベントに出向くと知っている顔ばかり並んでいるなんていう事態もしばしば…。そのこと自体は悪いことではないのですが、でも今回こうして久々に知らない人ばかりの知らない空間に放り込まれてみると、やっぱりそれはそれで楽しいし、元気も出ました。また会いたい人がたくさんできたから、それまでもうちょっとがんばってみようと思います。

（下郷　さき　反貧困ネットワーク北海道）

■シンポジウム

反貧困大集会のシンポジウムは、立ち見が出るほどの大盛況だった。

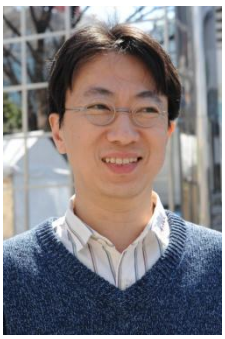
出演者は、「首都圏学生ユニオン」の岩井佑樹さん、「東京東部労組メトロコマース支部」の後呂良子さん、『女子高生の裏社会』著者であり、「女子高生サポートセンターColabo」代表の仁藤夢乃さん、そしておなじみ「もやい」の稲葉剛さん。司会は私・雨宮処凛だ。

なんといってもこの日弾けていたのは後呂さん。最近60歳になったという彼女は、東京メトロの売店で働く「売店のおばちゃん」だ。もともと労働運動などにはまったく関心がなかったどころか「嫌いだった」と断言する彼女だが、正社員との圧倒的な格差が、ある日彼女を立ち上がらせた。時給は

1000円、月給にして12万円程度。単身の彼女はそれで生活を支えているのだ。そんな彼女は「私たちを、差別しないでください!」と訴えて、昨年3月に同じ「メトロレディー」たちとなんとストライキを決行!

そんな彼女を、「首都圏学生ユニオン」の岩井さんは「カッコいい!」と大絶賛。

また、同じく弾けていたのは仁藤夢乃さん。彼女は自身が「難民高校生」だったというギャル時代の写真を映し出しながら、女子高生の行き場のなさと、それを利用する「JK（女子高生）産業」の実態について語ってくれた。甘い言葉で未成年に性的サービスをさせようとスカウトする大人たち。自己肯定感の低さや、貧困、家庭での居場所のなさといった様々な問題が絡まり、少女はJK産業に吸い込まれていく。しかし、そこには当然危険がつきまとう。



そんな仁藤さんの話を受け、稲葉さんは「女子高生をスカウトする人と、路上生活者に声をかける貧困ビジネスなどの手配師の手口は似ている」と指摘。

そうなのだ。支援者にはおそらく心を開かない女子高生や、支援者を拒絶する路上生活者も、手配師やスカウトしてくる人々にはひっかかっているという現実があるのである。この辺り、彼らの「ノウハウ」を学べないだろうかと本気で考えたのであった。「空き巣に学ぶ防犯対策」みたいな感じだ。

ちなみにこの日はスペシャルゲストも客席から発言。元赤軍派議長で、現在はシルバー人材センターから駐車場監視員として派遣されて働く塩見孝也さんだ。客席からシルバー人材センターの労働の実態を語ってくれたのだが、最終的には「全共闘運動」などと言い出し、会場は笑いに包まれる。私としてはおそらく「世界同時革命」まで

行くと思っていたのだが、おそらく最近「遠慮する」ということを覚えたのだろう。ちなみにそんな塩見さんは11月、『革命バカ一代　駐車場日記』という本を出版するという。

ということで、JK 産業から世界同時革命まで、多彩すぎる顔ぶれのシンポジウムは大盛況で幕を閉じたのだった。

（雨宮 処凛　作家・反貧困ネットワーク世話人）

■ワールドカフェ

ワールドカフェとは、カフェのようにリラックスした雰囲気をつくり、４～６人のグループで話し合い、場所を移りながら自由な「語り合い」を行うこと。この日は「あなたにとって貧困問題とは？」「貧困の根っこにはいったい何が？」

「この社会を生き抜くためになにができる？」の３つの問いで 100 人以上の人がワールドカフェで話し合った。そして、様々な感想が寄せられた。

群馬県の司法書士の方の話が印象に残りました。士業でも貧困の方がいるとのこと。これは驚きでしたが、「自分よりもっと困っている人を助けていると元気になる」というのには同感でした。もうひとりの方は、潰瘍性大腸炎だとのこと、派遣切りに抗してたたかっておられるとのことでしたが、体調管理（難病指定ですから）大変だろうなーと。あと思ったのですが、反貧困ネットワークなので、みなさん貧困に関しては詳しいのでしょうが、一期一会の出会いでもっと仲良くなれる別のテーマ設定もあると思います。あえて問いを音楽とか芝居とか文化的なものにしてみて、会話を弾ませるというやりかたです。吃音の T さんの話が最も印象的でした。壁を溶かそう。

（吉村 一正　さんきゅうハウス）

みなさま、反貧困全国集会ではありがとうございました。私もワールドカフェでは、さまざまな経験をされてきた方々と意見交流ができました。政治によって困っている者同士が分断され、叩き合うように誘導されているよう。そこをどうにかできないか。という話などで盛り上がりました。

（橋本 真希子　反貧困ネットワーク埼玉）

本当に全国から同じ考えを持つ仲間が集まり、広くない会場が気が付くとびっしりと人でいっぱいになっていました。若い方たちは、Twitter を見て来たようです。

私がワールドカフェで話した方は、派遣法の改悪で生活が苦しいと訴えている方、精神障がいで生活保護を受給していたがやっと子供が独立できたので保護を断り、必死になって仕事をしながら活動に参加している方、最近年金を受給しだしたら生活保護より少なくて、初めて生活に困り何とかしなくてはと会場に来た方、皆さんが今の政治を何とか変えないといけないと強く語っていました。会場の発言で、精神障がいの方の支援をしている方が、目の前の困った方の支援で毎日忙しくしているが、政治の尻拭いをしているような気がすると（言葉は違っているかもしれません）言っていた言葉が気になりました。

（関口 多恵子　反貧困ネットワーク埼玉）

■STAND UP アクション

今年は、単に「STAND UP TAKE ACTION（スタンド・アップ）」を実施するだけでなく、スタンド・アップが達成を後押しする世界の貧困解決のための「ミレニアム開発目標（MDGs）」に関する説明も行いました。そしてその説明後は、「障がい者の生活保障を要求する連絡会議」の尾上裕亮さんからの

プレゼンをはさみ、尾上さんのかけ声でスタンド・アップを実施しました。MDGsに関しては、知らない方もまだまだ多いのでその基本から現在の進捗状況、そしてMDGs後の2016年からの新しい目標のことなどを駆け足で話しました。内容が多く数字データもあるので短時間での説明は難しかったのですが、細かい数字などは配布資料を見ていただくということで駆け足での説明となりました。尾上さんとのコラボもうまくいき、最後のスタンド・アップでは約140人が参加して貧困のない世界に向けて気勢をあげました。

（諸 英樹　動く→動かす）

私は、諸さんと一緒にスタンドアップを担当しました。同じ団体に所属している西田さんから、「集会会場のバリアフリーチェックを手伝ってください」と言われ、最後から3回目の実行委員会に参加しました。そこで、スタンドアップのかけ声という大切な役目をいただくとは、思いませんでした。私は障がいのため、口で話すことや身体を使って盛り上げることができないため、どうしたものかと不安でしたが、諸さんと相談し、皆様のご協力があってやり遂げることができました。とにかく盛り上げるパワーポイントを作ろうとしました。担当できて良かったです。

今回、貴団体と障がい者団体がつながることができたことは、有意義だったと思います。今の日本には社会的な課題が多数ありますが、お互いに関係し合いながら、市民運動をしていければ素晴らしいと考えます。ありがとうございました。

（尾上 裕亮　障害者の生活保障を要求する連絡会議）

■集会全体の感想

反貧困全国集会2014に、反貧困ネットワーク埼玉の一員として参加させていただきました。埼玉からは、私も含め、総勢10数名のメンバーが参加しました。

午前中に行われた、全国の反貧困ネットワークの活動報告会は、とても刺激的で興味深いものでした。北は北海道から南は熊本まで、全国14の地域の反貧困ネットワークのメンバーの方が参加されて、それぞれの地域での取り組みなどをご報告されました。それぞれの地域で、メンバーのみなさんが、独自性を持って、いろいろ考えたり、工夫されたりしながら活動されているのが印象的でした。また、午後のシンポジウムは会場が文字通り超満員となり、イスが足りなくなるほどでした。総合司会は、反貧困ネットワーク埼玉が担当し、磯山京子さんと広瀬が務めました。刺激的なパネルディスカッションに加え、会場からも活発に質疑などがあり、熱気と活気にあふれ、盛り上がりました。また、その後、ワールドカフェや、参加者同士の交流会も行われ、とても活発で有意義な集会になったと思います。

埼玉からも、全国集会の間、さまざまな機会をいただいて、埼玉の活動報告や、参加メンバーのご挨拶、生活保護引下げ反対訴訟の傍聴支援要請など、さまざま情報発信をさせていただきました。今後の全国の反貧困ネットワークの横の連携が築け、より相互の活動が活発になるような集会がまた開催できればと思いました。

（広瀬　隆　反貧困ネットワーク埼玉）

思っていた以上に、たくさんの反貧困ネットワークから参加されていたこと、充実した活動をされていることに、元気をもらいました。雨宮処凛さん、稲葉剛さんのいつもながらのスムーズなシンポジウムはさすがでした。仁藤さんの家出高校生で性被害を受けている高校生の救出と支援をしている話、奨学金の返済に苦しんでいる岩井さんの

話、60歳近くになって大嫌いだった労働運動に目覚めたという後呂さんの話は、どれも大変勉強になりました。

ノーベル平和賞のマララさんは素晴らしいですが、日本の若者も素晴らしいと思いました。20代から60代のさまざまな活動家がいる東京は、首都というポテンシャルそのものからくるエネルギーがあると感じました。

私自身、実行委員会に参加し、なぜか現地スタッフの一人として、裏方や懇親交流会の司会をすることになり、いろんな方に迷惑をかけましたがとても面白かったですし、勉強になりました。それから、全国からの参加ができるよう、反貧困全国集会2015は、早めのカンパ集めや、今回、大阪とつながりましが、ネット活用で、スカイプ、ユーチューブのネット中継をもっとやれるといいと思いました。

弱者が追いやられる閉塞状況を突き破るためには、来年のテーマ設定のためにも早めに内部の学習や戦略を練ることが大事と思いました。今回、ご準備頂いた皆さまに改めて感謝申し上げます。

（水谷 英二　反貧困ネットワークあいち）

とても良い内容の集会だったと思います。すべてが良かったので、何と言ったらいいかわかないのですが、個人的に、特に真心が伝わってきたものとしては、「東京東部労組メトロコマース支部」（私鉄の駅構内の売り場の非常勤労働者が結成した労働組合）の後呂さんの発言、総合司会の H さんと I さんの安定感、懇親会の司会の名古屋の M 司法書士の誠実さ、反貧困ネット北海道の「ムックリ」（アイヌ民族の伝統楽器）の声帯演奏、などなどがありました。最近は、裏表のある事が多いので、心を洗われたような気がしています。それにしても、「ムックリ」をもう一度、聴いてみたいなぁ･･･。

（小林哲彦　反貧困ネットワーク埼玉）

■キッズコーナー

今回、キッズコーナのお手伝いをしました！などというほどお役に立っていません。私は準備、打ち合わせも欠席で、お遊びグッズは U さん、おうちごっこ用？テントは W さんがご持参して下さいました。環境は、いろいろな遊びアイデアがちりばめられていましたが、なにより良かったのは、キッズコーナーが屋外だったことです。ぽかぽか陽気のもと、気持ちよかった～しかも、階段を上ったところのスペースで、参加者の出入りもあって、さみしくなかったです。キッズコーナに来てくれたお子さんは1人だけでしたが、行きかう来場者さんとも会話が出来ました。

準備から参加していないと、やはり集会の参加者といった意識が強く、自身が主体的にイベントに関われなかったことが残念でした。来年こそは、出遅れることなく実行委員に手を挙げたいです。（このネットワークの皆様の活動に対するアツイ思いと、実績と重みに、私のような新参者がなんだか参加しにくいのも否めませんが）。

キッズコーナーでおしゃべりした（繋がった）首都圏青年ユニオンの Y さんが、後日、バイトに励む若者にも配布しやすい権利手帳を届けて下さいました。ありがとうございました！東京都生活協同組合連合会の I さんとも繋がることが出来まし

た。知らない活動を知り、繋がったことが具体的によかったことです。ありがとうございました。

（栗林　知絵子）

■こもれびコーヒー

先日の反貧困全国集会 2014 では、大変お世話になりました。お陰様で、たくさんの方々にコーヒーを飲んでいただき、嬉しい感想も聞くことができ、メンバー一同大変喜んでおりました。本当にありがとうございました。さて、焙煎メンバー達にイベントの振り返りをしてもらったところ、以下のような声が上がりました。

★テレビで見た顔の若い女性が発表されていて『おおっ！』と思った
★皆さん、それぞれ言いたいこと言っていてね、いいんじゃないでしょうか
★人がものすごくたくさん来てくれて良かったね
★隣のパン屋さんとの相乗効果でコーヒーも良く売れて良かった
★パン屋さんのパンがすごく美味かった
★熱湯を扱うので人でごった返している時は心配だったが、幸い事故もなく良かった

参加したメンバー達は熱気に驚きながらも、満喫したようでした。

本当にお世話になりました。ありがとうございました。

（こもれびコーヒー　小林　美穂子）

■風のすみか

反貧困全国集会 2014 では、大変お世話になりました。皆さんに「風のすみか」のパンを知っていただき、沢山のみなさんに、お昼に食べていただき、ありがとうございました。今回一緒に行ったメンバーは、すみかの研修が始まったばかりでまだ販売に慣れて居ませんでしたが、お陰様でいい体験ができました。また、会場でのお話を聞きながら、それぞれに思うところがあったようで、その意味で意義のある一日でした。

＜メンバーの感想～反貧困パン販売に参加して＞

★貧困と聞くと、経済的な貧困をイメージするが、JKのように、一見、経済的には困っていない（しっかりした親がちゃんといて）なのに貧困だという、大きな意味での貧困ってあるんだとわかった。
★孤独、寂しさ、心の闇、そんなものが、貧困だとしたら、自分も貧困だと思う。
★僕も貧困なんだと思った。今収入がなく、自分で生活できていない。他人の事じゃないのにどこか他人事だと感じている。現実味のなさがある。
★仁藤夢乃のさんの「難民高校生」の話は、他人事と思えなかった。私も家に帰らず、友達の家にいたときがあったので、家にいたくない気持ちはわかる。
★大人も、高校生の女の子をだましたり、心の闇に付け込んで、巧妙に操る能力があったら、もっと他にその力を使えばいいのに。。。。。
★偉い人たちは、上にあがっていく人のことばかりでなく、負けていく人のことも考えてほしい。
★パンの販売は、初めて、今期のメンバーだけで行ったが、みんなで協力してなんとか出来て良かった。接客も、明るくできて自信がついた。お客さんとのやり取りが楽しいなと思った。

集　会　宣　言

「生きぬくためにつながろう」

貧困は、つながりを簡単に断ち切る。人と人を孤立させる。ほんとうは憎みあわなくていいはずの人たちを憎みあわせる。生きることを苦痛にさせる。大切なものを失わせる。私たちは、貧困のない社会、すべての人が人間らしい暮らしができる社会に生きたいという共通の願いを持って、この集会に全国から参加した。

2007年に、人間らしい暮らしを求めてつながろうと訴えて、反貧困ネットワークが結成された。その後、世界同時不況、政権交代、東日本大震災・原発事故、再度の政権交代など、日本社会を大きく揺るがす困難な事態が続く中でも、私たちは、貧困問題を解決するために、声を上げ、互いに広くつながることを目指し続けてきた。

そして、この間、労働や福祉の問題など、貧困と結び付いている多様な分野で、全国各地の取組が行われ、この国に広がる貧困が可視化・顕在化されるという大きな成果が生まれた。
しかし、貧困や格差が拡大する状況は、今も続いている。本年7月に公表された貧困率は16.1%、18歳未満の子どもの貧困率は16.3%であり、いずれも過去最悪だ。にもかかわらず、政府は子ども貧困対策法大綱では、実質的な対策は全く盛り込まなかった。それどころか、公的責任を後退させ自己責任を強調する社会保障制度改革推進法の制定、生活保護基準の引き下げなどを強行したばかりか、引き続き、労働者派遣法の改悪による派遣労働の拡大、残業代ゼロ法の導入、解雇規制の緩和、住宅扶助・冬期加算等の削減など、雇用や社会保障を崩壊させ、貧困と格差を一層拡大させる政策を次々と推し進めようとしている。また日本再興戦略に基づき女性活躍法を臨時国会に提出しようとしているが、すべての女性の「活躍」にはほど遠い内容である。

事態が深刻化し危機的な状況にある今、貧困と格差の拡大を食い止めるために、貧困をなくしたいと願う、全国各地の個人や団体が、これまで以上に相互のつながりを広げ、貧困に抗する全国的なネットワークを強化する必要がある。

もう一度、私たちは呼びかける。私たちは1人ではない。　生きぬくために…つながろう。

2014 年 10 月 12 日
反貧困全国集会 2014 参加者一同

反貧困グッズの購入で、反貧困ネットワークの活動を支えてください！
http://antipoverty.shop-pro.jp/
グッズの売上は反貧困ネットワークの活動資金となります。皆様のご支援ご協力をお願い致します。

発行元：反貧困ネットワーク

〒113-0023　東京都文京区向丘 1-7-8　コミュニティ・スペース「ほのぼの」内
TEL/FAX　03-3812-3724
Mail：office@antipoverty-network.org
URL：http://www.antipoverty-network.org/